

森林

# レンジャー がゆく

(14)

## キヌノコの季節です

森を歩くには非常に不向きな季節といえます。たとえ雨が降って無くても、ぬれた枝葉でしっかりぬれます。さらにこの時期特有の蒸し暑さ、その上レインウェアを着ているとその蒸し暑さは極限の状態です。あまり人が森に入らないこの季節、たくさんのお見があります。その一つ、梅雨の森は、「キノコ」の宝

庫です。一般にキノコは秋と思われています。まさにその通りですが、この季節、春のキノコと夏・秋に発生するキノコが重なり、森の中は十分な湿度があることから、たくさんキノコを目にすることができません。たとえばキクラゲなど遅い春のキノコ、イグチの仲間、ヒメベニテングタケ、タマゴタケなどの夏・秋のキノコが目につきます。

ごくわずかなキノコ（ベッコウダケなど）の種類は生木に寄生して、木を枯らしませんが、ほとんどのキノコは、森の中の生命を終えた有機物（枯れ木や林床に落ちた枯れ枝、落ち葉など）の分解に役立っています。

す。キクイムシやカミキリ、クワガタの幼虫は枯れ木を食べて分解してくれまします。キノコは、菌糸を木質内に張り巡らしてこれを分解しています。また、広葉樹林では溜まった落ち葉の中に菌糸を張り巡らして、落ち葉の分解を進めるキノコがあります。そもそもキノコの本体は、この菌糸の広がりであり、皆さんが目にするキノコは子実体という胞子を飛ばす器官にすぎず、キノコの本体ではないのです。キノコの仲間の一部には菌根菌と言われ、樹木の根に菌糸を入れて養分のやり取りをする種類のキノコもあります。痩せた尾根や岩の上に育つ大木は、

この菌根菌との共生で育っているといえます。林床にたまった有機物は、誰かが分解して腐葉土にならないと草や樹木の根は養分として利用できません。たくさんキノコを目にすることは、その森の土壌の豊かさを表しています。キノコは森の豊かさのバロメーターと言えます。

(杉野)



ヒメベニテングダケ  
※食べられません